

第4章 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり

1 地域で支え合うまちづくり

(1) 地域の見守り・支え合い体制の構築

事業・取組の名称	○民生委員・児童委員による相談支援活動 ○豊岡市社会福祉協議会による地域福祉活動 ○高齢者見守りネットワーク事業 ○地域包括支援センター運営事業 ○ひとり暮らし高齢者等安心・見守り活動奨励金
対象者	ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、ひきこもり高齢者等
事業概要	地域住民、関連団体、事業者等が連携し、高齢者と地域で見守り支え合う体制を構築しています。

ア. 第7期計画の取組状況・実績

地域の住民同士のつながりが希薄になる中、高齢者のみの世帯が急激に増え、孤立死や老老介護等が大きな社会問題となっています。

高齢社会においては、地域におけるお互いの安否確認、孤立化・閉じこもり予防、緊急事態発生時の対応等が重要な課題となっており、地域住民同士の連携、民生委員・児童委員を中心とした地域の関係機関相互の連携を進める必要があります。

2011年10月からは、地域、生活関連事業所、地域包括支援センター、豊岡市社会福祉協議会等と連携を図りながら、見守る人、見守られる人を特定せず日ごろから高齢者をさりげなく見守り、異変を察知したときには地域包括支援センター等に連絡し、必要なサービス提供へつなぐ高齢者見守りネットワークの構築を進めています。

2018年度からは、行政区によるひとり暮らし高齢者等への定期的な見守り活動（「ひとり暮らし高齢者等安心・見守り活動」）が開始されました。

イ. 第7期計画の評価・課題

- (ア) 行政区、民生委員・児童委員等の関係機関が可能な限り情報を共有・交換し、地域、関係機関等が一体となって高齢者が安心して生活を送ることができるよう連携が必要です。
- (イ) ひとり暮らし高齢者等を定期的に見守ることにより、地域との日常的なつながりの強化や孤立防止が図られました。
- (ウ) 豊岡市社会福祉協議会が推進する住民の主体的な地域づくり及び総合相談・生活支援体制づくりと連動して取り組む必要があります。
- (エ) 高齢者見守りネットワークを推進するために、地域住民への継続的な周知が必要です。また、見守りを依頼する事業所等を増やし、異変を察知する「気づきの目」を増やしていく必要があります。
- (オ) 閉じこもりがちな高齢者等が、気軽に相談できるような連絡体制等の充実が必要です。

ウ. 第8期計画の取組の方向性

- (ア) 行政区、民生委員・児童委員等と連携し、ひとり暮らしを含めた高齢者のみの世帯及び介護の必要な高齢者に対して、緊急事態の発生時だけでなく、普段からの安否確認や閉じこもりを防ぐための声掛け等、高齢者と地域とのつながり強化や孤立防止に努めます。
- (イ) 地域福祉活動に対する理解を深めるため研修会等の充実を図るとともに、新たに地域の中核となって活躍できる人材の発掘や確保・養成に努めます。
- (ウ) 住民同士が支え合う体制をつくり、地域やボランティア等による定期的な訪問や、地域交流の居場所づくりの活性化に基づく見守り活動等、住民同士の支え合い活動を推進します。
- (エ) 日常業務の中でさりげなく見守り活動を行う協力事業所等を徐々に増やすことにより、高齢者見守りネットワークの充実に努めます。
- (オ) 住民同士の助け合い、支え合いでは解決できないような問題に対応するため、地域から地域包括支援センター等への相談、連絡、情報提供体制等の充実・強化に努めます。

④救急医療情報キット配布事業

事業・取組の名称	救急医療情報キット配布事業
対象者	65歳以上のひとり暮らしの方や65歳以上の方のみで構成される世帯等
事業概要	ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯等へ、急病等の緊急時に迅速な救急活動につなげるために、「かかりつけ医」、「持病」、「緊急時の連絡先」等救急時に必要な情報を保管する容器等（救急医療情報キット）を配布しています。配布情報については消防本部と共有し、救急隊の出動時に、より迅速な救急活動に活用されています。

ア. 第7期計画の取組状況・実績

市広報・市ホームページ等を利用して制度の周知に努めました。
 民生委員・児童委員に依頼し、事業の周知や申込の勧奨を行いました。
 民生委員・児童委員の協力を得て保管容器内の情報について、更新を行いました。
 配布キット数、配布者数ともに、計画値を下回っています。
市内全体での配布状況は、2020年3月末現在で対象者の約60%となっています。

表 救急医療情報キット配布事業の実績

	単位	2018年度		2019年度		2020年度(見込)	
		計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
配布キット数	個	300	191	300	299	300	
配布者数	人	500	260	500	424	500	

※計画値・実績値は、新規配布分の数値です。

イ. 第7期計画の評価・課題

高齢者の日常生活における安心感の向上につながっています。

ウ. 第8期計画の取組の方向性

- (ア) 市広報・市ホームページ等を活用して、事業の趣旨等について周知・啓発します。
- (イ) 民生委員・児童委員を通じて、救急医療情報キットの普及に努めます。
- (ウ) 必要に応じて、緊急通報装置の設置を促します。

表 救急医療情報キット配布事業の計画値

	単位	2021年度	2022年度	2023年度
配布キット数	個			
配布者数	人			